



申5号「水戸統括センター新設に伴う体制等について」団体交渉開催！ その①

1. 「水戸統括センター」の新設の目的を明らかにし、安全で働きやすい職場環境を構築すること。

確認事項 安全を最優先にする施策とすること。

日頃から管理者とのコミュニケーションを行うこと。

組合：本施策の目的を明らかにすること。

会社：系統を超えて新たな価値の創造を一層推進していく観点から、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大させてこれまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現していくため、水戸統括センターを新設するものである。

組合：本施策を安全最優先の施策とすること。

会社：安全はトッププライオリティは変わるものではない。

組合：五反田駅落とし物拾得作業など、事故や事象を共有できる施策とすること。また、安全教育の考え方を明らかにすること。

会社：水戸支社では落とし物拾得作業や線路内に立ち入る場合、抑止手配を行っている。駅に限らず、乗務員にも教育を行っている。安全教育はCS活動のみならず、様々な場で議論を行う考えである。

組合：組合員・社員が日頃から管理者とコミュニケーションを取れる職場を構築すること。

会社：普段から管理者とのコミュニケーションを行うことは必要である。

2. 「水戸営業統括センター」の成果と課題を明らかにすること。また、統括センターでの組合員・社員の働き方・業務内容を明らかにすること。

確認事項 乗務員勤務制度に則り、在宅休養時間を確保する。

組合：「水戸営業統括センター」の成果と課題を明らかにすること。

会社：水戸営業統括センター内で他駅間の相互運用や輸送と信号の駅内での運用、兼務を担っている水戸運輸区から水戸営業統括センターへの運用等を行うことが出来た。今後は駅から乗務員職場への運用を行う考えである。

組合：水戸統括センター発足後、駅から乗務員職場へ融合する業務を明らかにすること。

会社：資格がないものは出来ない。列車内の特別改札や副長は当直業務や営業勉強会の講師など、出来ることから始める考えである。

組合：乗務員については、乗務員勤務制度に則り、在宅休養時間を確保すること。

会社：乗務員勤務制度に則り、勤務作成時に在宅休養時間を確保する考えである。

組合：水戸線・常磐線と水郡線では取り扱いが異なる。教育内容について明らかにすること。

会社：上菅谷駅では異常時の取り扱いの教育を行っている。また、企画グループのリーダーが現地を見て、各副長に教育を行っている。

3. 「企画グループ」と「業務グループ」を設置する目的や業務内容を明らかにすること。

組合：「企画グループ」を設置する目的や業務内容を明らかにすること。

会社：地域との販売施策や総務業務、運転業務の教育や訓練の企画など、主に企画業務を担う。作業ダイヤに入り、従事する場合もある。

組合：「業務グループ」を設置する目的や役割を明らかにすること。

会社：主に作業ダイヤや乗務行路で従事するなど、鉄道オペレーションを担うグループである。

組合：「企画グループ」と「業務グループ」の指揮命令系統を明らかにすること。

会社：所長がトップで、企画グループリーダーと業務グループリーダーを1名配置する。

組合：業務グループの組合員・社員が企画グループに入ることはあるのか明らかにすること。

会社：業務の繁閑に応じて入る場合もある。固定的な考えはない。